

はっくつ 2006

栗東市 ◆ 話題の発掘調査



・葉山川流域の遺跡

縄文時代のムラ……狐塚(きつねづか)遺跡
弥生時代のムラ……坊袋(ぼうぶくろ)遺跡

・古墳時代のあんなもの&こんなもの

琴……小柿(おがき)遺跡
鏡……辻遺跡

・奈良時代の倉庫群を確認

手原(てはら)遺跡

写真:墨書土器「峯長」(左)・「鯖」(右)
手原遺跡出土

● 縄文時代のムラ～狐塚遺跡

狐塚遺跡は、安養寺山の麓に位置する縄文時代中期から近世以降にいたる複合遺跡です。1986年の調査で縄文時代後期の竪穴住居が2棟確認されているほか、2002年、2003年の調査でもそれぞれ1棟ずつ竪穴住居の可能性をもつ遺構が確認されています。

今回の調査区は、狐塚遺跡の北端にあたり上鈎遺跡に近接しています。地表面から60cmほど下げた地点で縄文時代の竪穴住居、土坑、集石などが確認され、竪穴住居は長軸約3m、短軸2.6mを測り、平面形はおそらく隅丸方形になると思われます。床面には柱穴の可能性をもつピット、土坑のほか、北辺隅に焼土面が確認されています。

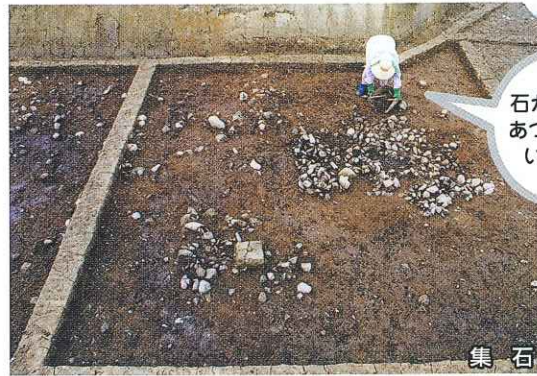
遺物は、縄文時代中期後半から後期前半の土器を中心に、石器では、石鏃50点以上をはじめ、石錘、石斧、石匙など多数出土しています。また竪穴住居や土坑などから出土した中期後半の土器は、神明式とよばれる東海地域との関連が伺える土器で、当時の交流を知る上で注目できます。（近藤）



竪穴住居



わたしたちが
住んでた
家だよ～。



集石

石がいっぱい
あつまられて
いるなあ。

葉山川 流域の遺跡



● 弥生時代のムラ ～坊袋遺跡

きれい
におそうじ
しましょう。



河川

こんな
大きな木、
どこで切ったん
やろなあ～。



壺棺墓▶

坊袋遺跡は、栗東市南部の金勝山系から北西に流下した金勝川の北西側に広がる遺跡です。弥生時代から平安時代の遺構・遺物がみられ、とくに弥生時代中期後半（約2000年前）と後期後半（約1850年前）に集落が形成されています。

今回の調査区では弥生時代中期～古墳時代中期に幅15～30mの河道が北西方向に流れていたことがわかりました。当時の金勝川の支流と推定されます。

河川の右岸からは弥生時代中期後半の方形周溝墓、土坑墓や壺棺墓が発見されました。弥生時代中期末～後期には掘立柱建物や区画溝がつくられ居住域になったとみられます。また河川の左岸には弥生時代後期後半～古墳時代前期の居住域が広がっていました。

河川内からは弥生時代後期後半の土器群や古墳時代前期の木製農具や部材などが良好な状態で出土しており、当時のムラの様子を知る貴重な資料となりました。（大崎）

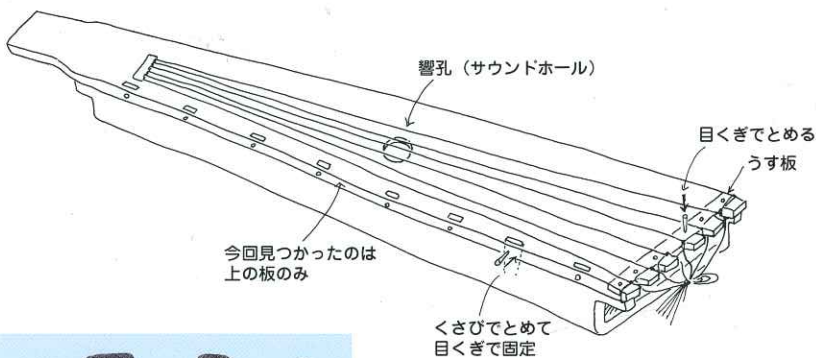
琴 小柿遺跡

琴が出土した調査区は小柿遺跡の南部にあたり、古墳時代の河川、溝、^ほ壕のほか、平安時代の掘立柱建物、耕作痕などが確認されました。

古墳時代の河川からは、土器に混じって木器が数点出土し、その中に琴がふくまれていました。

琴の特長は、共鳴槽をもつ琴の上板（琴板）で、槽作りに分類されます。大きさは、現存で幅13cm（復原すると琴尾幅25cm程度）、長さ103cm、最厚1.4cmを測ります。現存する琴尾の突起は3ヶ所認められ、復原すると、弦を6張はった復原長140cm以上の大型の琴になります。また琴板表面の琴尾部分に凹部が設けられ、薄板をあて目釘で留めるといふ細工がなされています。このような細工を施した例は現在確認されていません。役割については今後の課題ですが、弦の琴板くい込み防止用や化粧板として装着したなどが想定されます。

（近藤）



琴 復元図



琴板の細部



古墳時代のあんなもの&こんなもの



辻遺跡現地説明会風景

辻遺跡は野洲川左岸の自然堤防状微高地上に所在する遺跡です。古墳時代には約500棟以上の竪穴住居が検出され、^{かつせき}滑石・碧玉の玉作関連遺物や韓式系土器が出土しています。今回の調査区では古墳時代の竪穴住居が38棟などが検出されました。竪穴住居は方形で、一辺4～5mのものが多くみられますが、中には一辺7mのものもありました。

鏡片は6世紀の竪穴住居の最上層から出土しました。復元すれば直径が11.8cmとなる青銅鏡で、鏡背面の文様から^{ねじもんぎょう}振文鏡とよばれ、古墳時代前期（4世紀）につくられたものと考えられます。文様帯の部分にはベンガラとみられる赤色顔料が付着していました。

集落内からこのような割れた鏡が出土するのは非常にまれな例といえます。おそらく付近に存在したと考えられる古墳に副葬された鏡が、何らかの事情で割れ集落にもたらされたのでしょう。

（雨森）

鏡 辻遺跡



▲振文鏡片



奈良時代の倉庫群を確認

てはら
手原遺跡

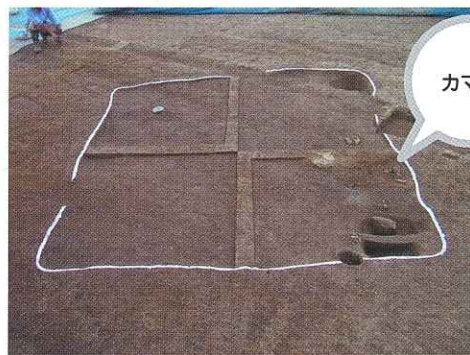


整然と並ぶ倉庫の跡

手原遺跡は、JR草津線手原駅を中心に広がる遺跡です。過去の調査により、白鳳～奈良時代の瓦や規模の大きな掘立柱建物群、倉庫群が見つかり、古代寺院「手原廃寺」と官衙（役所）跡の存在が明らかになってきました。

今年度調査で見つかった遺構は、8世紀後半のもので、南北方向に掘られた2条の区画溝とその内側に整然と配置された倉庫群や井戸跡です。高床倉庫は最大のもので3×3間・29㎡で、計10棟。「屋（おく）」と呼ばれる平屋の倉庫が5棟。深さ2.7mの井戸1基です。井戸からは「鯖」「峯長」と墨書された須恵器と土師器（表紙写真）が出土しました。倉庫群の性格は役所の「倉院」または手原廃寺に伴う「倉垣院（そうえんいん）」が考えられます。

また、南北溝の外側には、当地方では珍しい8世紀後半の竪穴住居1棟が確認されました。倉庫群の管理棟など一般の住居とは異なる施設の様です。（佐伯）



奈良時代の竪穴住居



墨書土器が見つかった井戸



私たちも発掘を体験。

手原遺跡では、夏休み期間中に「発掘体験」が行われました。「発掘体験」では市内外の小学生を中心に、のべ71名が発掘と整理作業を体験しました。調査したのは奈良時代の倉庫群を囲む区画溝の跡。猛暑の中、移植こて（手スコ）を使って、少しずつ掘り下げていきます。完全な形の遺物は出ませんが、土器のかけらを発見すると歓声が。この体験をレポートにまとめ、夏休みの自由研究にするという人もいました。



瓦が出てきたよ〜

はっくつ 2006 ～栗東市話題の発掘調査～

発行日 2007年3月31日 編集発行 財団法人栗東市文化体育振興事業団文化財調査課

〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山47栗東市出土文化財センター内 TEL077-553-3359 FAX077-553-3514

印刷 大津紙業写真印刷株式会社

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています